

レタスハモグリバエの見分け方

本種はハエ目(双翅目)、ハモグリバエ科に属し、野菜・花き類の害虫として著名である。本種に関する情報は既に本誌42及び52号で紹介されているが、本稿では形態的特徴を中心に紹介する。輸入検疫における本種の発見頻度は高く、我が国が最も侵入を警戒している害虫の一種である。

ハモグリバエ科は全世界で約2,500種が知られており、ほとんどの種は一種類ないし数種類の植物のみを加害する。このことから、寄主植物が判れば種の推定が可能であると言われている。

一方、本種を含む16種は例外的に広範な植物を加害する害虫として知られている。

和名: レタスハモグリバエ

学名: *Liriomyza huidobrensis* (Blanchard)

英名: pea leaf miner

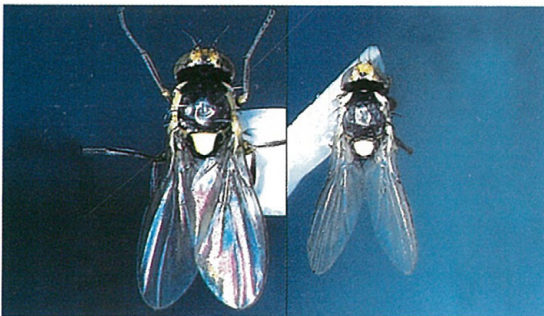
分布: 米国、中南米、欧州、インドネシア等。

寄主: ケシ科、ナデシコ科、アカザ科、ウリ科、スミレ科、セリ科、マメ科、アマ科、カタバミ科、キク科、ハナシノブ科、ナス科、ネギ科、ユリズイセン科の14科が寄主として記録がある。

形態: 成虫の体長は2~3mm。頭部、肩瘤、小盾板等は部分的に黄色。脚は黒褐色。同属のマメハモグリバエ及びナスハモグリバエと比較すると、体サイズは大きく、黒化が著しい。

一方、幼虫(3齢幼虫)の体長は約3.3mm、体色は黄白色。左右の大顎は2歯を有する。前・後気門は背面寄りに位置する。蛹は体長約2.5mm、黄褐色ないし赤褐色。マメハモグリバエとナスハモグリバエとの形態比較及び成虫・幼虫の識別ポイントは下表、図を参照されたい。

		レタスハモグリバエ <i>L. huidobrensis</i>	マメハモグリバエ <i>L. trifolii</i>	ナスハモグリバエ <i>L. bryoniae</i>
成虫	翅長	1.7~2.3mm	1.3~1.7mm	1.8~2.1mm
	体色	全体的に黒色、ややくすんだ光沢	胸部背面は光沢のない黒灰色	胸部背面は光沢のある黒色
	触角	第3節やや大型、しばしば褐色	黄色	黄色
幼虫	後気門孔数	6~9	3	7~12



左: レタスハモグリバエ 右: マメハモグリバエ



レタスハモグリバエ成虫(側面)



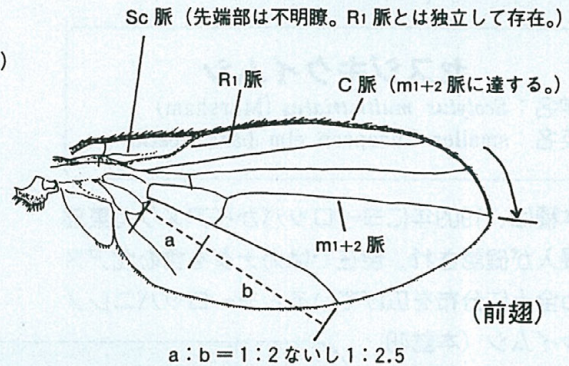
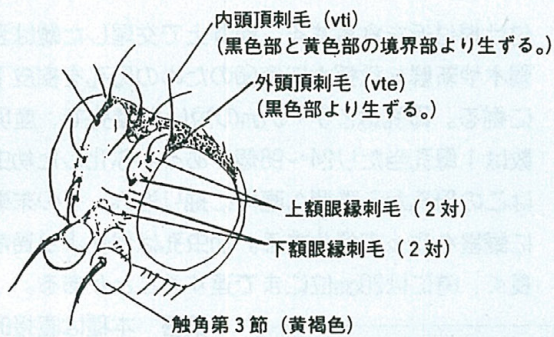
成虫(背側面)



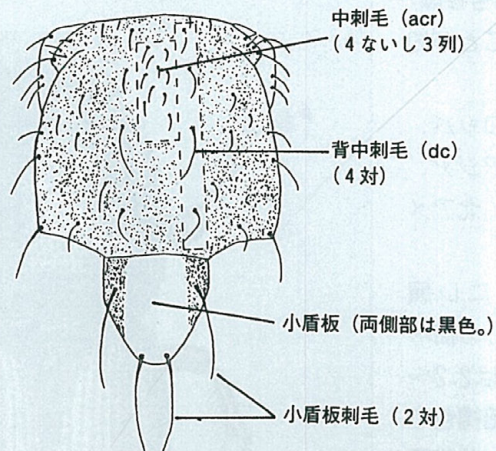
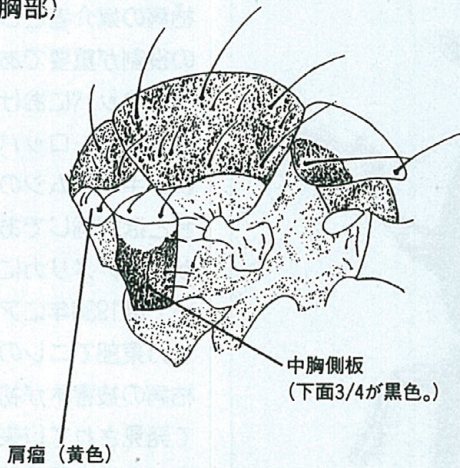
幼虫の食害痕(レタス)

レタスハモグリバエ (*Liriomyza huidobrensis*) の識別ポイント

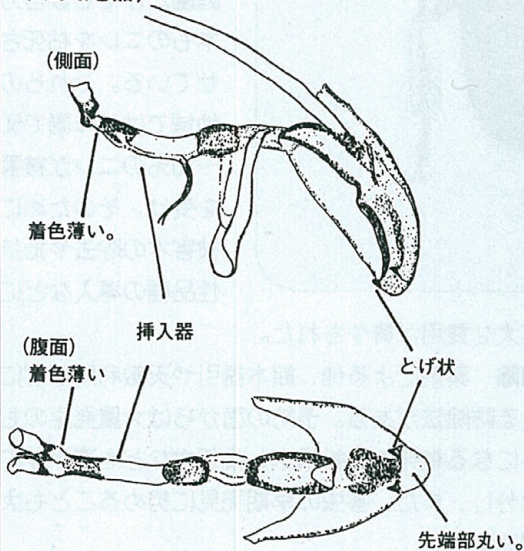
(頭部)



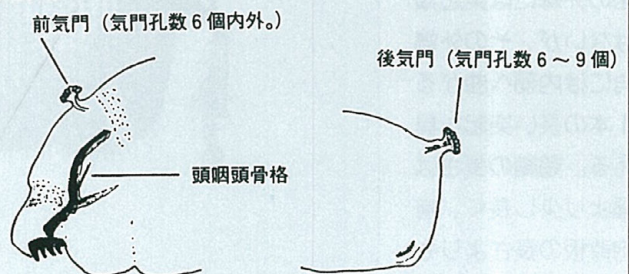
(胸部)



(雄交尾器)



(幼虫)



(蛹)

